

藤田 嗣治と 愛書 都 市 パリ

—花ひらく挿絵本の世紀—

Tsuguharu Foujita and Illustrated Books
in 20th Century Paris

2012年
7月31日(火)～9月9日(日)

開館時間：午前10時—午後6時／毎週金曜日は午後7時まで（入館は閉館の30分前まで）

休館日：8月6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、9月3日(月)

入館料：一般300円(240円)、小中学生100円(80円)（ ）内は10名以上の団体料金

60歳以上および障がい者の方(付添1名を含む)は無料 毎週土曜日は小中学生無料

主催：渋谷区立松濤美術館 企画協力：林洋子 特別協力：東京国立近代美術館／ランス市立図書館／集英社 企画・運営協力：キュレーターズ

記念講演会

8月4日(土)午後2時から

林洋子(京都造形芸術大学准教授)

「藤田嗣治 装本のしごとと蔵書をめぐって」

渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL03-3465-9421

JR渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

<http://www.shoto-museum.jp>



藤田嗣治 1928年頃 撮影：アンドレ・ケルテス | Ullstein bild/Uniphoto Press

d'homme, par les sons et les couleurs, —

par les ar
se sentent
l'existence
qualifier.
tendu de
Je mens.
S'ils renou
existence,
au somme
n'existe p
trésors qu
jusqu'à se
corps, les
vivent pas
ne se rési

la tendresse, elle est cette race
même, — les dons et les abandons et les
contredons qui ne sont pas ; s'ils n'arrivent
plus, dans cette mutation hier encore si
facile, à passer justement la non-existence
à ce qui existe trop, à la nutrition, à la

assez d'étoiles le soir pour éclairer mon
retour virginal vers ce dessin femelle...

C'est elle qui est pure, qui est vraie, sur
moi il y a beaucoup à dire, et c'est moi qui
résiste. Je suis à l'âge où l'égoïsme consiste

pu... aussi, c'était
dans. C'est le pire. C'est le moins généreux
aussi, c'était

j'étais pourtant gonflé et léger de tendresse
que le front allié fut enfoncé près
si les obus tombaient sur Paris,
je m'inquiétais du quartier atteint, par peur
par la mitraille alle-
fanons du Capulard.
Au fond, tous
llement leur passion
le précieux, le pur et le beau, sont
chantés d'avoir leurs tableaux dans des

藤田嗣治と愛書都市パリ —花ひらく挿絵本の世紀—

Tsuguharu Foujita and Illustrated Books in 20th Century Paris

ヨーロッパにおける挿絵本の歴史は古く、書物としての価値だけでなく、芸術作品として一つのジャンルを形成しています。各時代、画家が本の内容に自らの解釈とイメージによる挿絵を描き、文字と一体化した美しい挿絵本を生み出しました。それらは愛書家たちの収集の対象となり、稀少価値の高い美術品として伝えられてきました。とりわけ19世紀末から20世紀にかけては、印象派をはじめ新しい美術の潮流が挿絵本の世界に大きな変化をもたらします。画商ヴォラールは、ボナールやピカソ、シャガールら当時の著名な画家たちに依頼して、詩集や小説に版画による挿絵を付した限定版の挿絵本を世に送り出し、その人気は高まって出版ブームが訪れました。

藤田嗣治(1886-1968)がパリに渡った1913年は、こうした挿絵本興隆の時代のさなかにありました。やがてパリ画壇で頭角を現し始めた藤田は、サロン・ドートンヌの会員に推挙された1919年、最初の挿絵本『詩数篇』を手がけます。1921年には同展に裸婦像を出品、後に「すばらしき乳白色の地」と絶賛される画風により一躍パリ画壇で揺るぎない地位を確立すると同時に、挿絵本制作にも精力的に取り組み始めます。1920年代、藤田は30点以上の挿絵本を手がけ、あの天才ピカソでさえその半数に及ばなかったことを考えると、いかに挿絵本の世界に魅せられていたかがうかがえるでしょう。

本展は、1910年代以降に制作が始まり、戦後にまで至る藤田の挿絵本を一堂に集め、画家としての多面的な才能を紹介します。また、藤田が活躍した両大戦間のパリを中心に、同時代のエコール・ド・パリの画家たちが手がけた挿絵本も多数紹介し、近代ヨーロッパにおける挿絵本の魅力や背景を探ります。

記念講演会

8月4日(土)午後2時から
林洋子(京都造形芸術大学准教授)
「藤田嗣治 装本のしごとと蔵書をめぐって」

担当学芸員によるギャラリートーク

8月3日(金)、8月17日(金)、8月31日(金)
それぞれ午後2時から

美術映画会

9月1日(土)午後2時から
名画の秘密シリーズ
「パリの夜と夢
ロートレック、マリー・ローランサン、モディリアニ」

次回展予告

古道具、その行き先
—坂田和實の40年—
10月3日(水) — 11月25日(日)



藤田嗣治『中毒について』より 1928年 ランス市立図書館 蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012



藤田嗣治『海龍』より 1955年 東京国立近代美術館 蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012



藤田嗣治『ラ・フォンテーヌ二十の寓話』より 1961年 東京国立近代美術館 蔵/ランス市立図書館 蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012



マルク・シャガール『フィレータスの果樹園』(M 326)『グフニスとクロエ』より 1957-60年(1961年刊) 北海道立近代美術館 蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012, Chagall®



藤田嗣治『朝日の中の黒鳥』表紙 1927年 東京国立近代美術館 蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012



藤田嗣治『二人の女』 1918年 北海道立近代美術館 蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012



パブロ・ピカソ『知られざる傑作』より 1931年 うらわ美術館 蔵
©2012 - Succession Pablo Picasso - SPDA (JAPAN)



渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 2-14-14 TEL.03-3465-9421

JR 渋谷駅下車徒歩 15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩 5分

<http://www.shoto-museum.jp>

表:藤田嗣治『イメージとのたたかい』1941年 東京国立近代美術館 蔵/早稲田大学演劇博物館 蔵
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2012